

平成 17 年度 豊島区総合防災訓練の実施について

1. 目的

大地震の発生を想定し、豊島区、防災関係機関等、地域住民が一体となった、訓練の実施を通じて、協力体制の確立・防災行動力、防災意識の一層の向上を図るとともに、大震災時等における円滑かつ効果的な災害応急対策活動の向上を目指し、もって区民の生命の安全、安心を図る。

2. 実施方針

大地震発生時の初動活動に重点をおいた訓練を行い、事後に評価を行うものとする。

また、訓練項目ごとに、次に掲げる実施訓練方針に基づき実施する。

(1) 救援センターにおける地域合同防災訓練

豊島区、地域防災組織、防災関係機関等が一体となって、地域の災害応急対策の活動拠点である救援センターでの実践的な災害応急対策訓練（避難所運営訓練等）を行う。

(2) 地域防災組織による予知対応型訓練

東海地震の発生が予知されたことを想定し、自助・共助態勢を確認し、避難路の確認訓練、防災資器材点検等を行う。

3. 実施日時

平成 17 年 8 月 28 日（日）

(1) 救援センターにおける地域合同防災訓練 午前 9 時 00 分～12 時 00 分

(2) 地域防災組織による予知対応型訓練 午前 8 時 30 分～9 時 30 分

4. 訓練想定

(1) 救援センターにおける地域合同防災訓練

平成 17 年 8 月 28 日（日）午前 9 時 00 分頃、東京区部直下を震源とするマグニチュード 7.2 震度 6 弱の大地震が発生した。

この地震により、区内各所で火災が発生、建物の倒壊や家具の転倒等によりけが人が続出した。

各地域防災組織では消火・救出救護活動を行うとともに、火災が延焼拡大したため、避難を開始した。

各地域本部長は避難者増加の連絡を受け、救援センターの開設を指示した。

(2) 地域防災組織による予知対応型訓練

平成 17 年 8 月 28 日（日）午前 8 時 00 分、東海地震の発生が予知された。

各地域防災組織は、避難路の確認、防災資器材の点検を開始した。

5. 訓練の内容

- (1) 救援センターにおける地域合同防災訓練
 避難訓練、救援センター運営訓練など
- (2) 地域防災組織による予知対応型訓練
 避難路の確認、防災資器材格納庫の点検・整理、小型消火ポンプの点検・始動、発電機の点検・始動など

6. 実施会場

- (1) 救援センターにおける地域合同防災訓練
 千登世橋中学校（5地区）・長崎小学校（6地区）・駒込小学校（10地区）・池袋第二小学校（11地区）
- (2) 地域防災組織による予知対応型訓練
 各地域防災組織「防災資器材格納庫」設置場所

平成17年度豊島区総合防災訓練参加者一覧

地区	会場	参加町会	参加団体	地域本部長	補佐
第5地域	千登世橋中学校救援センター	高田中央町会 高田三丁目町会 東目白千登世町会	豊島消防署 豊島消防団 目白警察署 豊島区医師会 豊島区歯科医師会 東京都トラック協会豊島支部 東京ガス 後藤学園 学習院大学(予定)	城山行政管理課長	神谷中央保健福祉センター所長
第6地域	長崎小学校救援センター	長崎一丁目町会 長崎二丁目町会 長崎三丁目町会	池袋消防署 池袋消防団 目白警察署 豊島区医師会 豊島区柔道接骨師会 豊島土木建設協会 東京電力 立教大学学生ボランティア	大平エコライフ課長	池上生活福祉課長
第10地域	駒込小学校救援センター	駒込第一町会 駒込二丁目親和会 駒込三丁目町会 染井よしの町会 駒込六丁目東文化会 駒込七丁目町会	豊島消防署 豊島消防団 巣鴨警察署 豊島区医師会 豊島区薬剤師会 東京都トラック協会豊島支部 東京ガス	吉末子育て支援課長	佐藤施設再構築活用担当課長
第11地域	池袋第二小学校救援センター	池袋本町南町会 池袋本町一丁目町会 池袋本町中央町会	池袋消防署 池袋消防団 池袋警察署 豊島区医師会 豊島区歯科医師会 豊島土木建設協会 NTT	神田住環境整備課長	川地生活産業課長

平成17年度 豊島区総合防災訓練の実施結果について

(平成17年8月28日実施)

1. 豊島区災害対策本部訓練

(1) 豊島区災害対策本部・西池袋災害対策用応急給水施設

会場	本部員	各災対部	災対要員	消防署	警察	その他	計
生活産業プラザ 西池袋公園	1	3	4	0	0	0	8

(2) 地域本部

会場	地域本部長	本部長補佐	要員	計
長崎小学校	1	1	2	4
駒込小学校	1	1	3	5

2. 地域合同防災訓練(15町会)

* 参加者一覧は裏面参照

地区	会場	区民	区職員	消防署	消防団	警察	医師等	その他	計
5	千登世橋中学校	109	16	15	15	3	3	11	172
6	長崎小学校	197	15	18	18	3	4	8	263
10	駒込小学校	196	16	15	16	3	3	6	255
11	池袋第二小学校	109	17	25	15	3	4	18	191
	計	611	64	73	64	12	14	43	881

3. 地域防災組織による予知対応型訓練

現在集計中

総参加人員

898

平成17年度豊島区総合防災訓練参加者一覧

地区	会場	参加町会	参加人数	参加団体
第5地域	千登世橋中学校救援センター	高田中央町会 高田三丁目町会 東目白千登世町会	34 34 41	豊島消防署 豊島消防団 目白警察署 豊島区医師会 豊島区歯科医師会 東京都トラック協会豊島支部 東京ガス 後藤学園武蔵野調理師専門学校
第6地域	長崎小学校救援センター	長崎一丁目町会 長崎二丁目町会 長崎三丁目町会	61 78 58	池袋消防署 池袋消防団 目白警察署 豊島区医師会 豊島区柔道接骨師会 豊島土木建設協会 東京電力 立教大学学生ボランティア
第10地域	駒込小学校救援センター	駒込第一町会 駒込二丁目親和会 駒込三丁目町会 染井よしの町会 駒込六丁目東文化会 駒込七丁目町会	32 25 20 29 50 40	豊島消防署 豊島消防団 巣鴨警察署 豊島区医師会 豊島区薬剤師会 東京都トラック協会豊島支部 東京ガス
第11地域	池袋第二小学校救援センター	池袋本町南町会 池袋本町一丁目町会 池袋本町中央町会	33 44 32	池袋消防署 池袋消防団 池袋警察署 豊島区医師会 豊島区歯科医師会 豊島土木建設協会 NTT
		合計	611	

平成17年度 箕輪町総合防災訓練への参加について

1. 経緯

豊島区と箕輪町における相互防災協定の締結を契機として、箕輪町の災害対応の状況を知るため箕輪町総合防災訓練に参加した。

また、総合防災訓練参加により豊島区を箕輪町町民に対し紹介する絶好の機会となった。

2. 日時及び会場

- ① 平成17年9月4日（日）午前8時00分から10時30分
- ② 箕輪町総合庁舎及び町立東小学校外数箇所

3. 区参加者

栗原防災課長、小林災害情報システム担当係長外係員2名（計4名）

4. 訓練内容

- ① 本部運営訓練
- ② 消火訓練
- ③ 救護訓練
- ④ 給水訓練
- ⑤ 広域応援訓練（協定先自治体豊島区参加）

※ 豊島区の参会内容

- (1) 応急救援装備の展示
- (2) 応急救援資機材の展示
- (3) 新潟県魚沼市災害時における豊島区救援物資の展示
- (4) 新潟県魚沼市災害状況の写真展示
- (5) 備蓄食料・水の展示及び試食・試飲提供

5. 訓練に参加して

当区における防災体制について箕輪町民から高く評価を受けると共に、防災協定の締結及び万一の場合に対する相互応援について歓迎された。

6. その他

箕輪町との防災協定

協定件名 非常災害時における相互応援に関する協定
協定月日 平成17年4月23日（土）



(9/3 16:00頃)宿営用天幕設営訓練。
約1時間をかけ、初の「区外防災拠点」完成。



(9/4 09:05頃)箕輪町側の好意により、看板と
展示用テント、本部の隣の展示場所の提供を
受けた。



(9/4 09:20頃)住民による消火器を用いた訓
練。
背景の一般参加者(約300名)に注目。



(9/4 10:00頃)
区の備蓄物資を用い、麦茶とクラッカー(区紹介
パンフレット付)を配布。
箕輪町民に非常な好評を博した。



(9/4 10:15頃)大盛況の豊島区展示ブースに、
箕輪町広報も取材に訪れた。



(9/4 10:30頃)全訓練無事終了。
閉会式にて箕輪町長、助役等と共に並ぶ栗原
防災課長。

東京都豊島区ので案内

東京都豊島区防災課

～箕輪町の皆様こんにちは。防災協定を結んでいる東京都豊島区です。
わたしたちの街、豊島区はこんな所です。～

1. 豊島区の基本データ (平成17年8月1日現在)

- ・人口： 252,052人 (うち外国人:15,752人)
- ・世帯数： 135,094世帯
- ・面積： 13.01Km²

2. 豊島区のプロフィール

東京23区の西北部に位置する豊島区には、JR山手線・埼京線、私鉄各線等10の鉄道路線が走っており、交通網が発達した便利な街です。

区内31駅の中で最大のターミナル池袋駅は、新宿駅に次ぐ全国第2位の乗降客数を誇り、一日平均約263万人が利用しています。

池袋東口の顔ともいえるサンシャインシティには、年間約3,000万人もの人が訪れ、池袋西口には、年間約64万人もの観客が訪れる東京芸術劇場があります。

一方、「おばあちゃんの原宿」として知られる巣鴨地蔵通り商店街は、「訪ねてみたい商店街」の1位に選ばれた活気あふれる商店街で、とげぬき地蔵で有名な高岩寺の大祭の日(毎年1・5・9月の24日)には、一日に約15万人もの人が訪れます。

また、豊島区には立教大学、学習院大学等100を超える学校・教育機関があり、街全体をキャンパスとした地域・学校の連携から、としまの未来が開けつつあります。

3. 豊島区の災害への備え

豊島区では、関東大震災と同規模の地震発生に備え、物資の備蓄等を行っています。

これらの備蓄物資等は、豊島区内で災害が発生した場合はもちろん、豊島区と協定を結んでいる自治体に万一災害が発生し、その自治体から要請があった場合は、救援物資等として被災者の皆様にお役立ていたします。

昨年10月に発生した新潟県中越地震では、豊島区と防災協定を結んでいる当時の堀之内町(現魚沼市)に、救援物資の提供等を行いました。

平成17年9月1日現在、おもな備蓄物資等の内訳は次のとおりです。

<食料品等>

- ・アルファ米： 137,700食
- ・飲料水： 26,000ℓ
- ・哺乳器： 2,400本
- ・クラッカー： 151,060食
- ・食塩： 3,742kg
- ・粉ミルク： 148缶
(6ヶ月乳幼児1,038人×3食分)等

<生活用品>

- ・毛布： 33,310枚
- ・簡易便器： 1,982個
- ・ゴザ： 2,400畳
- ・カーペット： 33,060枚
- ・ローソク・マッチ類： 5,110組
- ・テント： 15張 等

<人的資源>

- ・医師： 3名
- ・看護師： 37名
- ・保健師： 41名
- ・応急危険度判定士： 36名 等